

令和6年1月

魚津市定例記者会見

日時：令和6年1月4日(木) 午後1時30分～午後1時50分

場所：市役所 第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、北陸中日新聞社、富山新聞社、読売新聞、朝日新聞

新川インフォメーションセンター、新川コミュニティ放送

市当局出席者：市長、企画部次長(情報広報課長)



【市長からの発表事項】

○能登半島地震について

被災地の能登では懸命な救助活動が行われており、生活支援の取組についても国をあげて続けている状況。被災された皆様にお見舞い申し上げたい。魚津市では震度が市役所前の震度計では4.3で、能登半島地域や県西部に比べて比較的被害は少なかったが、災害対応の日々が続いている。

(資料の説明)

今回の地震と津波災害で思ったのは、避難所の運営の在り方などであり、これまで経験のない規模だったこともあり課題が多くあった。水や食料の十分な供給、暖房の燃料も不十分であった。自宅で過ごすほうが環境がいいのでそちらを選択せざるを得なかった方もいる。今回の経験を踏まえて、これまでの課題の整理と避難所の運営の在り方などを考えていきたい。

1. 「うおづのうまい水」ラベルデザインのリニューアル

(生活環境課)

「うおづのうまい水」のパッケージ(ラベル)デザインをリニューアルした。従来は「ミラたん」を前面に押し出したかわいらしいデザインだったが、東京のアンテナショップになじまないといった課題もあったので、魚津の水循環を表現したデザインにリニューアルした。

また、パッケージのリニューアルに合わせ、再びモンドセレクションへ応募することとなっている。5年連続の最高金賞受賞は他の自治体でもないことだと考えており、再度受賞を期待している。

2. 魚津市と富山労働局との「雇用対策協定」締結

(商工観光課)

富山労働局は自治体との協定を進めており、魚津市とも協定を締結することとなった。富山労働局と市で運営協議会を設置し、市内の雇用に関する課題について、連携を強化していくこととしている。

3. 魚津の農林水産業 体験・応援プロジェクト「親子体験会」

(農林水産課)

魚津の農林水産業を親子で学ぶ「親子体験会」を、7つのコースで1年間にわたり行ってきた。今回の体験会は、今年度の最終回となり「やさい（ハウス白ねぎについて学ぼう）」のコースで、下記のとおり白ねぎの収穫から出荷までの作業体験を行う。

4. 移住者交流会 うおづめし教室

(地域協働課)

平成30年から、移住されたみなさまを対象に、情報交換や知り合いづくりの場の提供を目的として実施している。好評いただいている「うおづめし教室」を開催し、「うおづのお雑煮」と「押せずし」作りをし、ランチ交流会をしていく。

5. 魚津市役所職員の名札表記の変更

(総務課)

従来、職員の名札に所属や役職のほか、氏名の漢字、ふりがな、顔写真等を表記している。近年、SNS上でトラブルとなった他自治体の事例があることから、この度、カスタマーハラスメントの予防対策として実施する。すでに今日から実施している。市民の皆様には、名札の表記は変わっても、対応はこれまでどおりしっかりとやっていきたい。

【質疑応答の内容】

○令和6年 能登半島地震について

《記者からの質問》

石川県七尾市との協定があるが、今後、支援予定はあるのか。

《回答》

災害時相互応援協定締結市の七尾市への支援内容については、協議中。必要な要請内容を確認していきたい。

《記者からの質問》

市のホームページでは、最新の状況しか公開されておらず、時系列、変更箇所がわからない。

《回答》

対応したい。

《記者からの質問》

津波警報での避難でかなりの渋滞がおこった。これまで水平避難は訓練などしてきたと思うが、垂直避難についてはどうだったのか。

《回答》

市民の皆様は命を守る行動としてすばやい行動をとっていただいたと思う。市で

は経験不足もあり、十分なアナウンスができなかった。海岸付近に住んでいる方への避難行動のありかたなど、十分呼びかけて行く必要があると考えている。

《記者からの質問》

市内の避難状況など、職員に対応してもらい助かった。当時の職員の体制はどうだったのか。

《回答》

可能な限り、全職員が参集し、対応にあたった。現在は、交代で夜間、休日の体制を整えている。今後しばらくは大きな余震があることも考えられるのでまずは1週間程度しっかり体制を整えたい。

《記者からの質問》

災害救助法が適用されなかったことについてどう考えているのか。民家への支援など、救助法対象外による影響はないのか。

《回答》

震度4と5の境目で対象外となった。対応内容は他市町とやっていることは変わらないので、国に応援していただきたいとの思いはある。民家等への支援については、他市は公的な支援があるのに魚津市はない、といった状況にならないよう考えていきたい。

○その他

《記者からの質問》

今年、市長選も控えているが、新年の市政方針を聞かせてほしい。

《回答》

公共施設再編の大きなプロジェクトが始まる年となる大事な1年である。市庁舎整備、駅周辺のまちづくり事業などしっかり取り組んでいきたい。また人口減、地域コミュニティ強化への対応も進めていく。教育についても、教育の質、学校での生活を支える環境づくりが大切だと考えている。

《記者からの質問》

公共交通について県西部で議論が活発化しているが、県東部についてどのように考えているのか。

《回答》

県東部でも、あいの風富山鉄道、富山地方鉄道が運行しており、人口が減少している中、持続的な公共交通を考えていかなければならない。沿線首長ともしっかり話をしていきたい。